

ななかまど

札幌市立中島中学校
学校通信 第5号
令和7年1月17日

「今年の学び」

校長 小川厚志

新しい年を迎えました。保護者の皆様におかれましては日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。令和7年も引き続き、どうぞよろしく願いいたします。年の初めに際しまして、始業式で生徒のみなさんにお話しした内容をお伝えいたします。(以下、始業式の話より)

昨年は能登半島の地震災害や羽田空港での事故のニュースから始まったのですが、今年は静かなスタートで充実した1年となるように期待したいものです。

さて、新年なので今年に期待する学びについてお話しします。私は、常々楽しむことによる意欲の向上をみなさんに言ってきました。今の若者の特徴は表現が苦手ではない。協働も苦手ではない。楽しむことを自分のモチベーションにすることができる。これがみなさんの強みです。どれも、一昔前の世代が苦手としていたことです。

スポーツの世界を見ても、例えば箱根駅伝では青山学院大学が今年も優勝しましたが、初優勝のときのスローガンは「わくわく大作戦」でした。監督は選手の後ろから声をかけるのですが、「死ぬ気で頑張れ」なんて言いません。「根性だ」でもありません。「あと10分頑張れ。そうしたら区間賞だ。ヒーローインタビューが待っているぞ。全国放送だぞ。ふるさとの父さん母さんも見ている。きれいなお姉さんからのインタビューだ。さあ、お前はヒーローになれ」って励ますんですね。プレッシャーをかけるとむしろ体が硬くなる。こうして前向きなイメージをさせる方が伸び伸びと速く走れると監督は仰っています。なるほど…。

このような意欲を高めるメンタルセット、これは引き続き持ち続けましょう。そして今年はそこに多様性の視点を加えるといいと思っています。

先日、2歳になる孫が来たので近くのフードコートへ行きました。うどんでも食べさせようと思って座席に向かった時に、サーティワンアイスの看板を見たんですね。「アイス、アイス」でキャン泣きです。息子は何かかなだめますが、一向に泣き止みません。しばらくして戻ってくると「父さん、こっちの人は視線が冷たいね」。何でと聞くと「見ているだけで何も言ってくれない。冷たいというより北海道の人はシャイなんだね。気になるけれども、どうしていいかわからず黙って見ている。関西ならおばちゃんが“わしに貸してみい”とか言いながら寄ってくるよ。おばちゃんが抱っこしても泣き止まないんだけどね」「ふーん、そうか。お前去年はボストンにいただろ、アメリカならどうだ?」「向こうも寄ってくるよ。そして“気にするな”“小さな子供は迷惑をかけるものだ”“若いご夫婦頑張れ”って励ましてくれる」。なるほど…。

人に迷惑をかけないように親は子どもを育てる。幼児であっても鳴き声が周囲に迷惑をかけることを気にする。時には親がいるのに子どもを泣かせて！みたいな反応もあります。これは世間様思想のある日本の良さでもあり厳しさでもあります。発達段階を考えると難しい面もあるでしょうか。どちらが良いとか悪いではなく、見方や捉え方の違いがあるということです。中学生にはこのエピソードはピンとこないかも知れませんが状況は想像できますね。今後の生活では、立場を変えて色々な角度から考えることもしてみましょう。

みなさんにとって、3学期はまとめの学期であると同時に、次のステージへの準備の期間です。どうか、今言ったような視点も加えながら計画・準備してほしいと思います。特に3年生は受験期を迎えています。高校は何もかもが中学校とは大きく違うでしょう。これまでとは違う世界が見えます。学校生活での自由度も大きくなり、人間関係も広がるでしょう。それが楽しくもあり、濃密な関係を作り将来につながっていきます。この生活を存分に楽しんでほしいと思います。

以上、3学期もみなさんの活躍を期待して、始業式のお話といたします。